

研究主題 音楽表現を工夫し、思いや意図を伝える力を育む音楽科学習指導の在り方
—小学校第3学年「おかしなすきなまほう使い」におけるタブレット端末を活用した話し合い活動の活性化を目指して—

小美玉市立竹原小学校
教諭 稲田 舞

1 主題設定の理由

平成29年度告示の学習指導要領の改訂の基本方針において、「全ての教科等の目標及び内容を「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で再整理した。」と示されている。音楽科においては、学習内容、学習指導の改善・充実を図るために、三つの柱の一つである「知識及び技能」について指導内容が明確化された。「技能」に関する指導内容について、「音楽科における技能は、「思考力、判断力、表現力等」の育成と関わらせて習得できるようにすべき内容であることを明確にした。」と示されている。このことにより、技能と「思考力、判断力、表現力等」を関連付けて指導することが重要であると考えられる。

そこで、「思考力、判断力、表現力等」の育成に関する目標である「音楽表現を工夫することや、音楽を味わって聴くことができるようにする。」の表現領域の「音楽表現を工夫する」に着目し、技能と「思考力、判断力、表現力等」を関連付けて指導し、音楽表現を工夫し、どのように表現するかについて思いや意図を伝えることができる児童の育成を目指す。

また、音楽科の授業について事前アンケートを実施したところ、「自分の考えを友達や先生に伝える活動は好きですか。」という質問に対し、どちらかという当てはまらない児童が10名、当てはまらない児童が8名いた。理由は、「自分の考えが思い浮かばない。」「難しい。」「恥ずかしい。」というものであった。自分の考えを伝える以前に、自分の考えをうまく表現できない児童がいることが分かった。そこで、従前でも重要視されていた「思考力、判断力、表現力等」の育成に関する目標に示されている「思いや意図(低学年は思い)」をもつことができれば、どのように表現するかについて自分の思いや意図が明確になり、自信をもって自分の考えを相手に伝えることができるようになるのではないかと考える。さらに本校の研究テーマである「コロナ禍における話し合い活動の活性化を目指して」において、タブレット端末を活用しながら音楽表現を工夫して、自分の思いや意図を伝える力を育成したいと考え、本主題を設定した。

2 研究のねらい

小学校第3学年音楽づくり「おかしなすきなまほう使い」の学習において、タブレット端末を活用することにより、話し合い活動の活性化を目指し、音楽表現を工夫して思いや意図を伝える力を育む音楽科指導の在り方を追究する。

3 研究の仮説

小学校第3学年音楽づくり「おかしなすきなまほう使い」において、1人1台タブレット端末を活用した話し合い活動を活性化すれば、児童は自信をもって自分の考えを相手に伝える力が育つであろう。

4 研究の内容

(1) 基本的な考え方

ア 音楽づくりにおける音楽表現を工夫するとは

学習指導要領において、「音楽表現を工夫するとは、音楽づくりの学習においては、実際に音を出しながら音楽の全体のまとまりを考え、どのように表現するかについて思いや意図をもつことである。」と示されている。

音楽表現を工夫するためには、実際に音を出して試行錯誤しながら、音色、リズム、速度、強弱、音の重なり、反復などの音楽を形づくっている要素が生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取り、どのように表現するかについて思いや意図をもつことが大切であると考えられる。

イ 音楽づくりにおける思いや意図とは

「思いや意図」とは、試行錯誤しながら音楽をつくる過程において、「このような音楽をこんなふうに表現したい、つくりたい、という考えをもつこと」であると考えられる。学習指導要領の第3学年及び第4学年の目標と内容に示されている音楽づくりの指導に関して、「指導に当たっては、音楽をつくっていく過程で、思いや意図を伝え合うことと、実際に音で試すこととを繰り返しながら、表現を工夫し、思いや意図を膨らませるように促すことが大切である。」とある。また、「児童がつくった音楽を互いに聴き合いながら、それぞれの表現のよさを認め合い、思いや意図を明確にしながらかつていく経験を積み重ねることも大切なこととなる。」と示されている。

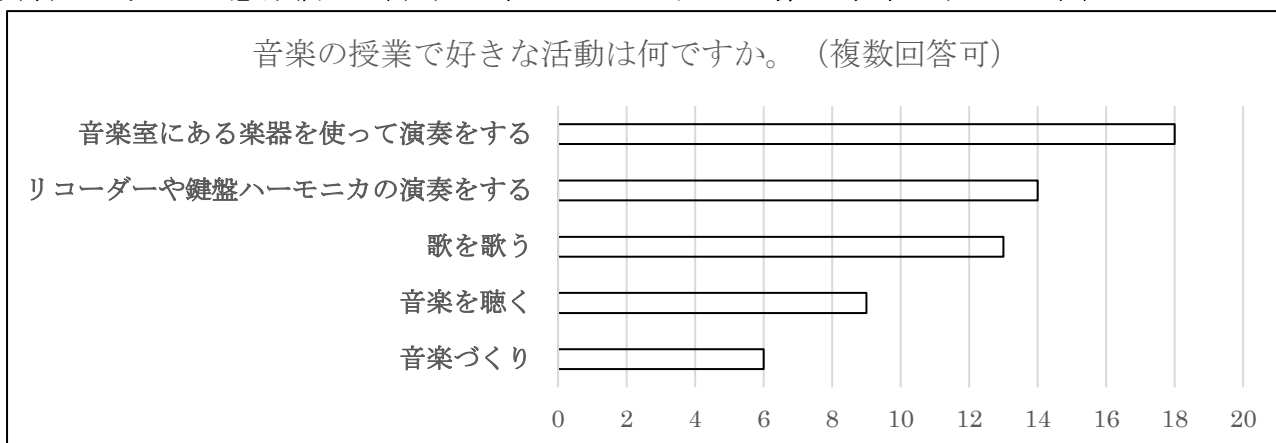
このことから、様々な楽器に触れ、実際に音を出して各楽器のよさや面白さに気づき、音の響きやそれらの組み合わせを試しながら音楽をつくる活動を行い、どのように表現するかについて自分の思いや意図を明確にしていく。その後、完成した音楽を互いに聴き合い、自分の思いや意図を伝え合う。その際に、互いの表現のよさを認め合ったり、より工夫できるところはないかさらに考えたりすることで、自分の思いや意図がさらに深まるのではないかと考える。また、思いや意図を表現する過程で、〔共通事項〕との関連を十分に図っていくことも重要である。

(2) 主題に迫るために

ア 児童の実態について(第3学年1組 男子11名 女子16名 計27名)

音楽科の授業に関するアンケートを実施したところ、「音楽の授業で好きな活動は何ですか。(複数回答可)」の質問に対し、音楽づくりが好きだと答えた児童は6名で、他の活動に比べて少ない結果となった。音楽づくりは音楽科の学習の中でも、どのように表現するかについて思いや意図が明確にならないと活動が難しい学習であるためではないかと考える。そこで、自分の思いや意図が明確になるための手立てが必要であると考えられる。

資料1 児童の意識調査（令和3年10月4日実施 第3学年1組 27名）



イ 音楽表現を工夫するための手立て

音楽表現を工夫するためには、実際に音を出す活動を通して、どのように表現するかについて思いや意図をもつことが重要である。本校は、令和元年度まで金管バンドの活動を行っていたため、音楽室には様々な種類の打楽器が置いてある。今まで使用したことのない打楽器も今回の学習で使用することで、様々な打楽器の中から自分のイメージに合った「まほうの音楽のもと」を表現することができるようにする。また、事前に打楽器の様々な奏法の動画を視聴することで、一般的な奏法にこだわらず、自分が表したい音の響きを自由に表現し、各楽器の音の響きのよさや面白さを感じ取りながら、音楽表現を工夫できるようにする。

ウ 自分の思いや意図を明確にするための手立て

「まほうの音楽のもと」をつくる活動の前に、自分のイメージした魔法使いを授業支援ソフトに言葉や絵で表現する時間を設ける。次にイメージした魔法使いがどのような魔法の音を出すか言葉で表現する。その後、表現したものを振り返りながら実際に音を出して表現の仕方を試しながら「まほうの音楽のもと」をつくる。「まほうの音楽のもと」をつくる前に、一人一人が魔法使いのイメージをもつことで、思いや意図が明確になるのではないかと考える。

また、授業支援ソフトに記録した考えを児童同士で共有し、書き出しに時間がかかる児童は友達のを参考にしながら、自分の思いや意図を明確にできるようにする。席を離れたり児童同士の距離が近づいたりすることがないように、コロナ禍において距離を保ちながら児童の考えをタブレット端末を活用して共有していく。

エ タブレット端末を活用した話し合い活動の活性化を目指すための工夫

それぞれの完成した「まほうの音楽のもと」を組み合わせて、「まほうの音楽」を完成させる活動では、共同編集機能を活用する。グループごとに「発表シート」を配布し、それぞれの「まほうの音楽のもと」をスクリーンキャプチャして貼り付けたり、この学習で押さえてほしい〔共通事項〕の「音の重なり」「強弱」「反復」を「キーワード」として貼り付けたりして、実際に音を出しながらタブレット端末上で操作を行い、話し合い活動の活性化を目指す。また、話し合い活動では1人1台タブレット端末を使用することで、密を避けて話し合いができるようにする。

5 研究の実践

(1) 授業の実践

ア 思いや意図を明確にするために

(ア) 打楽器の様々な奏法を知り、想像力を広げる

事前に打楽器の様々な奏法の動画を視聴した。児童たちは、マレットやバチの種類によって鍵盤楽器の音が変わることを知り、早速試してみたいと興味を示した。さらに、手や弦楽器の弓を使って鍵盤楽器を演奏するなど、普段見ることのない奏法を知ることによって、想像力の幅を広げることができた。

(イ) 思いや意図を明確にするための手立て

「おかしなすきなまほう使い」の CD を聴いた後、「まほうの音楽のもと」をつくる活動に進むが、思いや意図を明確にするために、この活動に入る前に曲を聴いてどんな魔法使いをイメージしたか、自分の考えを言葉や絵で表現する時間を取り入れた。どんな魔法使いをイメージしたかを問うと、「男の子」「女の子」「外国の人」など、各自想像を膨らませていた。1 番の歌詞に登場する「お菓子の好きな魔法使い」か、2 番の歌詞に登場する「おしゃれの好きな魔法使い」のどちらかを選択し、イメージした魔法使いを授業支援ソフトの 1 ページ目に絵で、2 ページ目に言葉で表現するよう指示した。児童は、意欲的に活動に取り組み、自分の思い描いた魔法使いを完成することができた。タブレット端末を使用することにより、かき直したいときにすぐに訂正したり、一度消しても元の状態に戻したりすることができるため、ちゅうちょなく活動に取り組むことができた。

その後、絵や言葉で表現した自分の思い描いた魔法使いを授業支援ソフトに保存し、タブレット端末を活用しながら、自分の思いや意図を明確にしてイメージした魔法使いを伝え合うことができた。

(ウ) 「まほうの音楽のもと」を言葉で表現する手立て

イメージした魔法使いが出す「まほうの音楽のもと」を言葉で表現する活動では、「音楽のキーワード」を活用した。「音楽のキーワード」とは、音楽の授業で児童がつぶやいた言葉やワークシートに書いた言葉を記録したものである。タブレット端末上に記録しておくことにより、児童の発言やワークシートに書かれた言葉をその都度書き加えることができる。

言葉で表現することが苦手な児童も、電子黒板に拡大掲示した「音楽のキーワード」の中から自分の思いに近い言葉を探ことができ、充実したキーワードの中から自分の思いや意図に合った言葉を選んで、つくりたい「まほうの音楽のもと」を言葉で表現することができた。

資料2 絵と言葉で表現した魔法使い



1 ページ目

12才くらいの女の子。食いしんぼう。おかしが大すき。とってもおっちょこちょいな女の子。いつもまほうのほうきに乗っているいろいろなことをしている。女の子は、黒ねこととってもなかよし。元気まんまん。

2 ページ目

資料3 「音楽のキーワード」

初期の「音楽のキーワード」	11月22日現在の「音楽のキーワード」
音楽のキーワード ～こんな言葉を使ってみよう～	音楽のキーワード ～こんな言葉を使ってみよう～
うきうき のんびり 楽しい やさしい	うきうき のんびり 楽しい やさしい
なめらか 元気な ゆったり はやい	なめらか 元気な ゆったり はやい
はずむよう おちつく 明るい	はずむよう おちつく 明るい わくわく
	はなやか 暗い 力強い にぎやか
	悲しい はげしい おそろしい さびしい
	うきうきするような 心細い ゆるやかに
	めぐるしい ふわふわ かるやか
	丸みのある おだやか あやしい ぶきみな
	いそがしそう な どっしりとした うたうような
	しずかな なつかしい きらきら かたい しっとり

※今後もキーワードは追記していく。

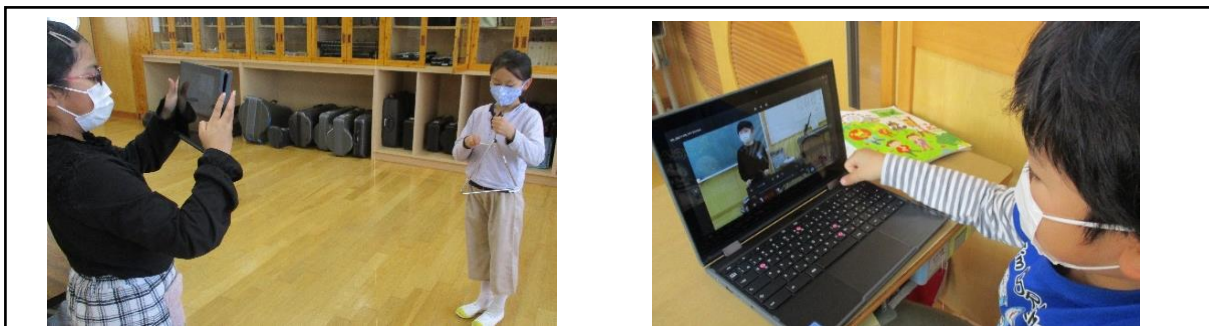
(エ) 音楽表現を工夫して「まほうの音楽のもと」をつくる活動について

音楽室にある楽器やバチ、マレットを種類ごとに並べておき、様々な楽器に触れ実際に音を出しながら自分のイメージに合った「まほうの音楽のもと」をつくり出せるようにした。事前に打楽器の奏法の動画を視聴していたため、一般的な奏法にこだわらず、「小太鼓を大太鼓のバチでたたきたい。」「トライアングルをマレットで演奏して優しい音を出したい。」など、自由な発想で様々な楽器の試奏に取り組むことができた。自分のイメージした「まほうの音楽のもと」に合った楽器を見つけると、様々な表現を試しながら、音楽表現を工夫することができた。

(オ) タブレット端末を活用した「まほうの音楽のもと」を図や言葉で表現する活動の工夫

授業支援ソフトを活用し、1ページ目に自分のイメージした魔法使いを絵で、2ページ目には言葉で、3ページ目は「まほうの音楽のもと」を言葉で表現したものを保存した。授業支援ソフトを立ち上げれば、自分の思いや意図をいつでも振り返ることができ、授業支援ソフトを活用しながら「まほうの音楽のもと」の完成を目指した。また、完成した「まほうの音楽のもと」を録画しておくことにより、録画を振り返りながら、「まほうの音楽のもと」を図や言葉で表現する活動に取り組むことができた。

資料4 タブレット端末を活用した「まほうの音楽のもと」をつくる様子



イ タブレット端末を活用した話し合い活動の活性化を目指して

(ア) [共通事項] について

この授業で押さえない「音の重なり」「強弱」「反復」の意味を全員で確認して、発表シートにそれぞれの言葉を事前に貼り付けておいた。使用しない [共通事項]

は削除したり、もっと使用したい〔共通事項〕はコピーをして貼り付けたりしながら、話し合いを進め、「まほうの音楽」をつくる活動に取り組むことができた。

(イ) 共同編集機能（発表シート）の活用 **資料5 話し合いの様子**


グループごとに発表シートを配布した。1, 2 ページ目はグループでイメージした魔法使いを言葉や絵で表現したものを、次のページからは、1人1ページを使用して、自分の考えた「まほうの音楽のもと」を図や言葉で表したものを記録した。完成した「まほうの音楽のもと」をスクリーンキャプチャし、最後のページに全員の「まほうの音楽のもと」や〔共通事項〕を貼り付けた。最後のページには事前に、演奏者の名前、担当する楽器名、マス目を表記したものを背景として保存しておき、児童が操作できないよう固定した。グループ全員の「まほうの音楽のもと」と〔共通事項〕を貼り付けておくことで、楽器を演奏しながらタブレット端末上で、どんな「まほうの音楽」をつくりたいか活発に話し合うことができた。1人1台タブレット端末を使用して話し合うことによって、密にならずコロナ禍においても活発に話し合い活動を行うことができた。



『新学習指導要領の展開 音楽編』（宮崎新悟・志民一成編著，明治図書）では、「音楽づくりの発想を得る指導や見通しをもった活動において教師自身が学習のゴールを見据えることの大切さ」について示されている。また、「曖昧な指示ではなく、適切な条件を児童に分りやすく提示することが大切である。」と叙述されていることなどを参考に、3つ目のマスでは魔法が成功した様子を表現するよう指示した。具体的に指示をすることで、児童は魔法が成功する音の完成を目指して思いや意図を明確にして活動に取り組むことができた。

「まほうの音楽」は、一般的な楽譜のようにはっきりとした拍子はないが3つのマスを設けたため、拍を意識しながら「まほうの音楽」づくりに取り組むことができた。あるグループは、魔法がうまくかからなかった状況を、静音で表現したいと考え、2つ目のマスを無記入にしていた。魔法がうまくかからなかった状況を静音で表現したいという思いや意図は、発表シートにマス目を設けたことで明確になったのではないかと考える。また、マス目ごとにどんな音をイメージしたか話し合ったことを書き加えることで、相手にどんな音を表現したいのか思いや意図がより伝わったのではないかと考える。

資料6 発表シート

<p>12才くらいの女の子。 ・おとなしいせいかく。</p> <p>・毎日まほうをつかっている。 ・かわいい</p>	<p>おかしがだいすき。</p> 
1 ページ目	2 ページ目

<p>3 ページ目</p> <p>小だいこ かかか タタタタ</p> <p>音の重なり</p> <p>反復</p> <p>弱く</p> <p>強く</p> <p>グロッケン タラララ</p> <p>タンプリン シャカシャカ トントント</p>	<p>4 ページ目</p> <p>小だいこ やさしくキラキラか がやいている音。 まほうがかかり始ま る。だんだん大きく。 せいこうして元気 明るい音</p> <p>かかか タタタタ</p> <p>反復</p> <p>音の重なり</p> <p>反復</p> <p>強く</p> <p>音の重なり</p> <p>グロッケン タラララ</p> <p>タンプリン シャカシャカ トントント</p>	
<p>6 ページ目 (話し合い前)</p>	<p>6 ページ目 (話し合い後)</p>	

ウ タブレット端末を活用した発表の場の工夫

「まほうの音楽」の発表会では、各グループがつくった発表シートを電子黒板で拡大掲示したり、一人一人タブレット端末に配布したりした。魔法使いのイメージや、マス目ごとに音のイメージを言葉で表現したもの、〔共通事項〕について説明してから、「まほうの音楽」を発表した。発表シートにまとめたものを参考にしながら発表することにより、自分の思いや意図を自信をもって伝えることができた。

全部のグループの発表後、感想を伝える場面では「3つ目のマスの音の重なりがよかった。」「1つ目のマスの音は弱かったけど、最後は強くなって違いがよく分かった。」などと、発表グループの発表シートを見ながら感想を伝えることができ、発表シートを活用することは、発表する児童だけでなく聴いている児童にも思いや意図がよく伝わるのが分かり、効果的であったと考える。

資料7 発表シートを活用した発表会の様子



(2) 授業実践例【資料8 「いろいろな音のひびきをかんじとろう」の指導計画】

次	時	学習内容・活動	知	技	思	態	評価方法・留意点など
1	1	<p>トランペットとホルンの音のとくちようを感じ取りながらききましょう。</p> <p>1 楽器の形や特徴, 楽器名を知る。 2 旋律の反復に気を付けて音楽を聴き, トランペットやホルンの音の特徴を感じ取る。 3 トランペットとホルンの音色を楽しんで聴く。</p>	○				<p>○ 態①: 音色や旋律などの特徴と曲想との関わりに興味・関心をもち, 音色の違いを感じ取る学習に進んで取り組もうとしている。【行動観察, 発表内容】 知①: 楽器の音色の違い, 旋律の特徴や反復と曲想との関わりに気付いている。【行動観察, ワークシート】</p>
2	1	<p>はくにとって、音色に気をつけて①のパートをえんそうしましょう。</p> <p>1 指導用CDを聴き, 曲想をつかんで主な旋律を歌う。 2 ミ, ファの運指を確認し, 音の出し方を工夫しながらリコーダー1の主な旋律を演奏する。</p>		○			<p>知・技②: 音色や旋律の特徴などと曲想との関わりに気付き, 音色や響きに気を付けて, リコーダーで演奏する技能を身に付けて演奏している。 【行動観察, 演奏聴取】</p>
	2	<p>はくにとって、音色に気をつけて②のパートをえんそうしましょう。</p> <p>1 レとドの運指を確認し, 音の出し方を工夫しながら演奏する。 2 リコーダー1と2を合わせて演奏する。 3 低音楽器のパートの旋律を階名で歌ったり, 楽器で演奏したりする。</p>				○	<p>態②: 音色や旋律の特徴などと曲想との関わり興味・関心をもち, 音色の違いや音の重なりを感じ取る学習に進んで取り組もうとしている。【行動観察】</p>
	3	<p>重なり合う音のひびきを感じ取りながらえんそうしましょう。</p> <p>1 鉄琴のパートの旋律を階名で歌ったり, 楽器で演奏したりする。 2 楽器の音の重なりを気をつけ, どのように演奏するか確かめながら演奏する。 3 グループに分かれて, 互いの演奏の仕方を確かめたり, 音量のバランスについて話し合ったりしながら合奏をまとめる。</p>			○		<p>思①: 音色や旋律の特徴, 音の重なり, 拍と曲想との関わりについての知識や技能を得たり生かしたりしながら, パートの特徴を捉えて演奏の仕方や音量のバランスなどを工夫し, どのように演奏するかについて, 思いや意図をもっている。 【行動観察, 演奏聴取】</p>
	4	<p>合奏のひびきをたがいにきき合しましょう。</p> <p>1 グループごとに工夫した点などを説明してから演奏を発表して, 互いの成果を聴き合う。 2 全員で合奏を楽しむ。</p>		○			<p>知・技③: 音色や音の重なり, 旋律の特徴などと曲想との関わりに気付き, 互いの楽器の音や副的な旋律を聴いて音を合わせて演奏する技能を身に付けて演奏している。【行動観察, 演奏聴取】</p>

3	1	<p>歌しから場面の様子を思いうかべて歌いましょう。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 指導用CDを聴く。 2 授業支援ソフトに、歌詞から思い浮かべた魔法使いのイメージを絵や言葉で表現する。 3 自分のイメージした魔法使いを思い浮かべながら歌う。 				<p>○ 態③:音色や旋律の特徴などと曲想との関わりについて考えながら、歌詞の内容が表す場面にふさわしい歌い方を工夫して歌う学習に進んで取り組もうとしている。 【行動観察, 演奏聴取, 授業支援ソフト】</p>
4	1	<p>いろいろな楽器を鳴らして、「まほうの音楽のもと」をつくりましょう。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 音楽室に並べてある楽器様々な音の出し方を試す。 2 楽器の鳴らし方を工夫して、「まほうの音楽のもと」をつくる。 3 自分のつくった「まほうの音楽のもと」を録画する。 				<p>○ 態④:楽器の音の特徴や音色を生かした即興的な表現に進んで取り組もうとしている。 【行動観察, 発言内容, 録画機能】</p>
本時	2	<p>音の組み合わせ方や重ね方を工夫して、「まほうの音楽」をつくりましょう。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 本時の学習課題を確認する。 2 「まほうの音楽のもと」を共同編集機能に図や言葉で表現する。 3 グループごとに「まほうの音楽」をつくる。 <ul style="list-style-type: none"> ・楽器の音を出す順番, 楽器の組み合わせ方や重ね方, 強弱, 反復などを工夫しながら, 共同編集機能を使ってグループの「まほうの音楽」をつくる。 4 「まほうの音楽」の中間発表をして, 互いに聴き合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・友達の表現のよいところや面白いところなどを話し合う。 ・友達の表現と比べて, より工夫できるところはないかグループでさらに考え「まほうの音楽」をまとめる。 				<p>○ 思②:音色やその重なりを聴き取り, それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら, 楽器の音の重ね方や反復の仕方などを工夫し, 音を音楽へと構成することを通して, どのようにまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。 【演奏聴取・作成した資料】</p>
	3	<p>グループごとに「まほうの音楽」を発表しましょう。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 グループのイメージした魔法使いや, 「まほうの音楽」を発表し, 互いに聴き合う。 2 感想を発表する。 3 本時の振り返りをする。 				<p>○ 技④:思いや意図に合った表現をするために必要な, 音の重ね方や反復などの音楽の仕組みを用いて, 音楽をつくる技能を身に付けて「まほうの音楽」をつくっている。 【演奏聴取, 作成した資料】</p>

6 研究のまとめ

(1) 音楽表現を工夫するための手立てについて

打楽器の様々な演奏方法の動画を視聴したことにより、自由な発想で奏法を試しながら音楽表現を工夫し、「まほうの音楽のもと」をつくることができた。

(2) 自分の思いや意図を明確にするための手立てについて

魔法使いのイメージを言葉や絵で表現したり、「まほうの音楽のもと」のイメージを言葉で表現したもの、「まほうの音楽のもと」の音源をタブレット端末に記録しておいたりして、学習活動を振り返りながら行うことで、どのように表現するかについて思いや意図を明確にして「まほうの音楽のもと」を言葉や図で表現することができた。また、発表シートを活用することにより、聴いている児童にグループの思いや意図がより明確に伝わったのではないかと考える。発表グループが「まほうの音楽」を演奏する前後に、聴いている児童は歌を歌う場面がある。発表グループがイメージした魔法使いを聴いている児童に言葉や絵で伝えると、説明を聞いた児童が、「女の子の魔法使いだから、かわいい声で歌おう。」「男の人だから、声を低くして歌おう。」などつぶやき、発表グループの魔法使いをイメージして歌を歌う姿が見られた。「まほうの音楽」の説明だけでなく、言葉や絵で表現した魔法使いも説明することで、発表グループの思いや意図がより伝わったのではないかと考える。

最後に感想を発表する場面では、発表シートを見ながらよかったところを伝えている児童がいたため、発表シートの活用は発表する児童だけでなく聴いている児童にとっても思いや意図を伝える活動にとっても効果的であったと考える。

(3) タブレット端末を活用した話し合い活動の活性化を目指すための工夫について

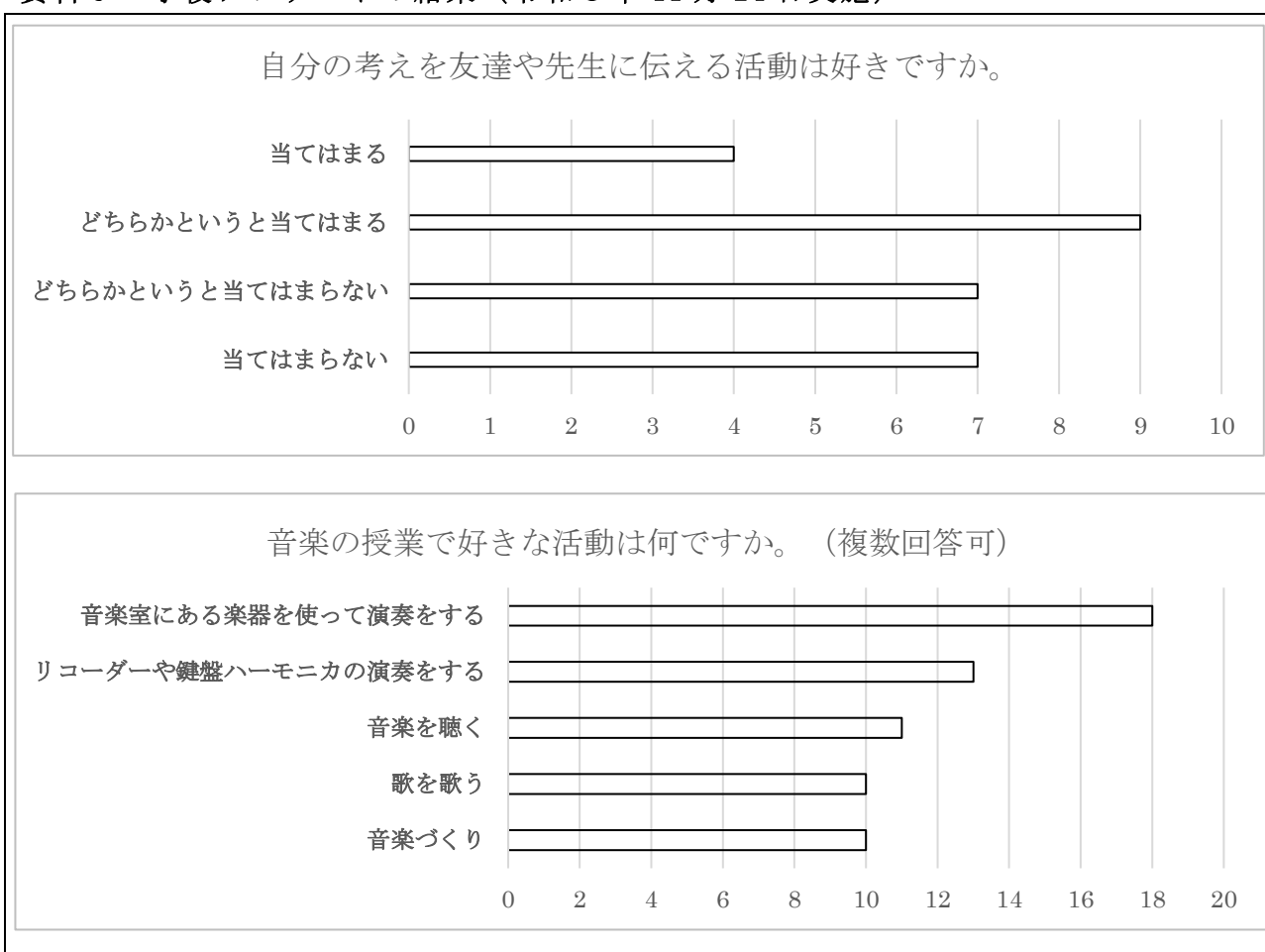
「まほうの音楽」をつくる活動では共同編集機能を使用したことにより、紙面上と違い、「まほうの音楽のもと」や〔共通事項〕を何度も書く作業がないため、その分話し合いの時間に充てることができた。タブレット端末を活用することで、「まほうの音楽のもと」や〔共通事項〕を簡単に貼り付けたり削除したりすることができ、様々な「まほうの音楽」のパターンを試しながら、活発に話し合うことができたと考える。また、1人1台タブレット端末を使用することで、密を避けながらコロナ禍においても活発に話し合い活動を行うことができた。

(4) 児童の変容

事後アンケートを実施したところ、「自分の考えを友達や先生に伝える活動は好きですか。」という質問に対し、どちらかという当てはまらない児童、当てはまらない児童共に7名という結果となった。CDを聴いてどんな魔法使いを想像したか言葉や絵で表現したり、イメージした魔法使いがどのような魔法の音を出すのか言葉で表現したりする時間を設けることで、児童一人一人が魔法使いのイメージを膨らませることができた。そのため、「まほうの音楽のもと」をつくる活動でどのように表現するかについて思いや意図を明確にすることができたのではないかと考える。また、自分の思いや意図が明確になることにより、自信をもって相手に自分の考えを伝えられるようになったため、自分の考えを友達や先生に伝える活動に対する苦手意識が軽減されたのではないかと考える。

「まほうの音楽」づくりの学習の振り返りでは、「1人より3人の音を合わせたら、力強いまほうの音楽ができた。」「緊張したけれど、グループのみんなと一緒に頑張ったから、うまく演奏できてうれしかった。」などの声が多くあり、グループで音を合わせて「まほうの音楽」を完成させた達成感や充実感を味わうことができたのではないかと考える。また、「発表シートの最後のマス目で魔法が成功した音楽をつくる」という具体的な指示をしたことにより、思いや意図を明確にして「まほうの音楽」づくりに取り組むことができた。何をつくるかがはっきりしたことにより、活動に意欲的に取り組む児童が増え、音楽づくりの活動が好きな児童が増えたのではないかと考える。さらに、発表シートに貼り付けておいた〔共通事項〕の言葉を使用して感想を書いていた児童が多数いて、〔共通事項〕との関連を図ることができたのではないかと考える。

資料9 事後アンケートの結果（令和3年11月24日実施）



7 今後の課題

- 事後アンケートから、「まほうの音楽をうまくつくることができたが、緊張して上手に演奏することができなかった。」と記述していた児童がいた。コロナの影響で行事が中止や縮小されることが多く、なかなか人前で発表する場が少ないことが影響しているのではないかと考えられる。自分の思いや意図を自信をもって発表できるよう、人前で発表する機会を多く設けていきたい。

(2) グループを編成する際，なるべくグループ内に同じ楽器を使用する児童がいないように編成した。そのため，魔法使いのイメージがなかなかまとまらず，話合いが滞ってしまったグループがあった。自分の思いや意図を大切にするためにも，魔法使いのイメージが似ている児童同士でグループを編成するなどして，魔法使いのイメージや「まほうの音楽」について話し合う活動がより活発に行えるよう工夫していきたい。

〈参考文献〉

- 文部科学省 「小学校学習指導要領解説 音楽編」 平成 29 年 7 月
- 文部科学省 国立教育政策研究所 教育課程研究センター
『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 音楽』
令和 2 年 3 月
- 宮崎新悟・志民一成編著「新学習指導要領の展開 音楽編」 明治図書
平成 29 年 11 月